

福島民報

発行所
福島民報社
福島市太白町13-17
(郵便番号960-8602)

郵便振替口座 0219-9-1158
電話代番 096-501-4131
編集局021-4119 広告部021-4133
事業部021-4173 販売部021-4178

© 福島民報社 2003



読者・資料センター 0120-803344
http://www.minpo.ne.jp

2003年(平成15年)10月28日(火曜日)

あぶくま抄

家庭生活、産業、まちづくり……。最近ではあらゆる分野で「環境」がキーワードになっていく。日々の暮らしの中で排出する生ごみや壊れた食器、家電から車、コンクリート、金属類などの廃棄物をそのまま捨てる「環境汚染」につながる▼こうしたごみの量を減らせばその分、処理に使う燃料や施設建設などの費用が少なくて済む。廃棄物の中から再生できる資源を増やす。その結果、新しい産業が生まれ、コスト削減による経済効果も高まる。そして不法投棄がなくなり「自然環境」が守られる。増え続けるごみを減らすことは、社会全体で取り組む課題だ。

▼須賀川市の大越工業は、鉄鋼を中心とした産業廃棄物の中間処理や資源リサイクルに取り組む企業。処理作業の効率を上げるため、副業的に機械も開発している。中には、発明とも言える画期的な機械もあるが、特許にすることはない。「時間と経費がかさみ、かえって本業を圧迫するから」だという。同社はわずか半年間で環境マネジメントシステムの国際規格のISOを取得した▼会社名は出さずに「環境」をテーマにした児童生徒の絵画コンクールや廃棄物を使った芸術作品の創作活動も支援している。こうした企業姿勢が各分野に広がれば、ごみは間違いなく減るだろう。極論すれば、廃棄物という言葉そのものが消えてゆくかもしれない。